

花木類の病虫害と

手入について



石田文三郎

折角植込んだバラや花梅、ツツジ、其の他の花木類が病気や虫害又は手入のわるかつたために、見事に開花すべきものも花が咲かなかつたり、場合に依つては樹が枯れてしまふものもあるので、花木類の病虫害の駆除や肥料の施し方、枝の剪定、整枝等に就いて少しく述べることにする。

☆バラの病虫害防除と追肥や剪定

バラの病気は色々あるが、中でも一番困るものは黒点病とウドン粉病(ミルデュー)である。

黒点病

この病気はバラの葉と茎に黒い斑点をつけた様に冒され、バラ作りの方は最も困る病気で、普通六月中旬頃から葉に病斑が出て秋まで続けて発生するもので、其のままにしていけばバラの葉は黒点から黄変して全部落ちる様になる。それがためバラの勢力は一時に衰弱して、場合に依つては枯死するものも出来る。

防除

バラの若葉が出た六月十日頃から⑥①⑥式(四斗式)の石灰ボルドウ液又はウズブルンの千倍液(水一八立にウズブル

ン一・二五瓦)等を十日に一回位撒布することに依つて予防することが出来る。又冬の間の落葉や敷葉等にも病菌が残つていたので新しいものと敷換えることがよい。

ウドン粉病

この病勢は湿度が昇つて湿度が多いというような時に、若い葉や蕾や花首などにウドン粉をふりかけたように白い粉があらわれ、次第に広がつて葉はちぢみ、病状がひどくなると葉は黄変して落葉するようになる。

防除

この病気を防ぐには通風のよいところを選ぶことと、葉や花首に病状が見えた時は石灰硫黄合剤の八〇倍乃至一〇〇倍液を噴霧器で撒布するか、又は「ソイド」四五瓦に水一八立を入れたものをかき廻し、これを撒布することに依り防除することが出来る。一度発病するとなかなか防除しにくいものであるから、五日乃至一週間一回位五、六回撒布することが必要である。この外バラの病気としては根頭ガン腫病やネマトーダがあるが、今のところ被害が少ないので略す。

害虫

アブラ虫は、春五月下旬頃から新芽の附

近に多数発生してバラの養分を吸収するので新梢や幼蕾の發育をさまたげる。この虫は長さ二ミリ半位で、翅のあるものとなないもの、体色も緑色のものや幾分褐色のものもある。

駆除

この虫はロゼゾールの八〇〇倍液又はBHC三七・五瓦に水一八立又はデリス剤二二・五瓦に水一八立、この何れかのもので撒布に依つて駆除することが出来る。新しい農薬でマラソン等も特効がある。この害虫は一尾でも生き残ると一夜にして多数の子供を繁殖するので、薬剤は一日置いて二、三回撒布することが必要である。

チウレンバチ

この虫は新梢や葉を喰する害虫で、頭の黒いイモ虫の小さなような虫で、多数一カ所に発生して葉や新梢を喰するため数時間に依つて葉や茎を丸坊主にしてしまふことがある。

駆除

この虫は発見次第にBHC又はDDT、或はロゼゾールの八〇〇倍液又は除虫菊剤の撒布に依つて駆除することが出来る。

葉巻蛾幼虫

この虫は新梢や若葉を喰し葉を巻いてその中にいる害虫で、五月下旬頃発生の時、ロゼゾール又はBHCで、或はDDTの撒布に依り駆除することが出来る。

カイガラ虫

この害虫はバラの根元の幹や枝につき、白灰色の一ミリ半位の貝殻をかぶつた虫で、幹から養分を吸収するのでバラの株を衰弱させる害虫である。

駆除

この虫は貝殻をかぶつているので薬剤を撒布しただけでは殆ど効果がない。六月下旬頃乃至七月初旬頃虫の繁殖時期にロゼゾールの八〇〇倍液を撒布するか、害虫の附着力所が少い時は歯ブラシにこの液をつけて被害部分を摩擦すれば、貝殻が取れて液が侵入駆除することが出来る。

アカダニ この害虫は殆ど目に見えない程の微細な赤色のダニで、葉の裏に乾燥高温の時急速に繁殖し葉の養分を吸収する害虫で、この虫におかされた葉は黄変してかさかさとなり、逐には落葉することもある。

駆除

この害虫は湿気をきらう虫であるから、朝夕一日二回位噴霧器で葉の裏に水を撒布することに依つて駆除することが出来る。この外ホリドールやロゼゾールの撒布でも駆除出来る。

「ゲザレックス」と称する粉剤が出ている。

この薬は黒点病やウドン粉病にも効果があるし、アブラ虫やチウレンバチにも効果がある。使用法は撒粉器で葉上に撒粉することに依つて効果がある。

施肥

バラは発育中は相当の肥料分が必要であるから、追肥をやらなければならぬ。追肥としては液肥が普通に用いられ、油粕一・八立に米糠三・六立、人糞尿の腐つたもの九立に水一八立を入れ、一、二カ月醗酵させたものを施肥の場合十倍乃至十五倍にうすめ、三日に一度位の割合で株の大きさに依り〇・三六立位施肥する。追肥は開花中は一時停止し、八月頃からうすい液肥と、木を充実させるために過燐酸石灰を八月中旬一株に対し〇・〇四立位施すとよい。

整枝

バラは発育中は細かい小枝が数多く出るものであるから、是等は随時適當の処で切除し、太い勢力のよい枝を出すようにつとむると共に落花の枝は花首から一・三立位の下の処で切り取り、又株の根元から台芽が出た時はこれを根元から切り取らぬとバラの株を弱らせることになる。

☆梅

梅の種類には果樹用の梅、庭園用の梅、盆栽用の梅等その品種は数多くあるが、北海道では冬の寒さが強い枯死するものが多く、庭園用としては白梅で一種、紅梅で一種、その外はアンズのみが発育して現在庭園用に用いられている。

病虫害

梅の病害は脂病がある。この病は幹や枝から脂が出て、被害がひどい時はその枝や幹を枯らしてしまうことがある。この病は発見次第その部分の樹皮を削り取り、削った部分にコaltarを塗布してやればよい。又削り取った樹皮は直ちに焼却することが必要である。

アブラ虫 このアブラ虫は庭園用の梅にも春の芽出から開花時にかけてアブラ虫の発生が多く、この被害の多いものは葉を巻いてその中に虫が繁殖して、少々殺虫剤を撒布しても表面のみ葉液がかかつて葉の巻いた中からかため、梅の樹を衰弱させることになる。

駆除 梅の若葉が出初めた頃ロゼゾールの八〇〇倍液かマラソンの三千倍液、又はBHC三七・五瓦に水一八立の葉液を噴霧器で撒布し、又開花後一回同液を撒布する時はアブラ虫を駆除することが出来る。前に述べたように葉の巻く前に駆除することが必要である。

整枝と施肥

梅は庭園樹として栽培する場合は、放置すると各方面に枝が繁茂して樹形が悪くなるし花着もよくないので、適当の形に枝を剪定することが必要である。その時期は、開花後六月下旬乃至十月初頃が適期である。

梅も肥料を施さなければ毎年多数の花は着きにくい。それで五月下旬頃、梅の樹の根の囲りを樹の太さに応じ円形に六・五〜一〇〇㎝深さに掘り、その中に人糞尿の腐つ

たものを少々うすめて七・二〜九立施すか、又は鶏糞の乾燥したものを砕いて〇・五四〜〇・七二立位施し、その上に土をかけてやれば毎年よく開花させることが出来る。

☆ツツジ類

ツツジの種類はその数非常に多く、北海道では色々の種類が栽培されているが、北海道は冬の寒さのためその栽培する種類も限定されて、ヤマツツジ、エゾムラサキツツジ、ムラサキヤシオツツジ、レンゲツツジ、クロフネツツジ、ヨドガワツツジ、リウキウツツジ、ミヤマキリシマ、ミツバツツジ等は北海道でもよく栽培出来る。培養は比較的簡単であるが、施肥をしなかつたり病虫害の駆除をおこたつた場合には花つきも悪く、場合に依つては枯れるものも出来る。

施肥

ツツジ類の開花は、北海道では早い種類は四月下旬から晩いものでも六月中旬には満開する。花が終つたならツツジの株の回りを六・五〜一〇〇㎝の深さに掘つてその中に人糞尿又は油粕液の腐つたものを二倍にうすめて株の大きさに依り〇・九立から一・八立位の割合で施肥し、終つたならその上に土をかけておけば毎年よく開花させることが出来る。

病害

ツツジの天狗果病この病気に侵されると新梢が草箒状の小枝が發生するので株を弱らせる。是を除くには被害部を切り取つて焼却すると同時に、⑧〜⑩式(三斗式)石灰ボルドウ液を撒布すると駆除することが出来る。

虫害

ゲンバイ虫 この害虫は多くはツツジ類の葉の裏に附着して養分を吸収し、樹を弱らせて被害が最も多い時はついに葉が黄変して落ちるに至る。これを駆除するには葉の裏からロゼゾールの六〇〇倍液を二、三

回噴霧器で撒布することに依つて駆除することが出来る。

スリップとアカゲニ 共に非常に小さい害虫で、肉眼では一寸発見しにくい位の虫である。スリップは葉の表裏をなめて葉を見にくくする。アカゲニは多く葉の裏に附着して葉の養分を吸収する害虫である。共に空気の乾燥する時に多く繁殖するのであるから、葉の表裏に噴霧器で水を度々撒布するか、又はロゼゾールの六〇〇倍液を度々撒布することに依り駆除することが出来る。

☆石楠

石楠の種類もなかなか多く、日本種及び外国種に分けて開花時期は場所によつて異なり、北海道では日本種は五月下旬から七月初旬、外国種は六月初旬に誠にうつくしい花を開花する。

開花後の手入れ

石楠は開花後花をそのまましておくとは結実する。これを成熟させると樹の養分を突のために消費することになつて翌年の花つきに影響するから、落花後は結実させず花首からもぎ取ることがよしい。

又追肥は開花前五月初旬から油粕の粉末を、石楠の大きさに依り〇・四〜〇・二立位、大株には〇・二立位、三週間に一回位の割合で六月下旬頃までの間に二回乃至三回程株の周囲を少々掘つて施し、うすく土をかけて置けば翌年もよく花蕾をつけることが出来る。鉢植の場合は油粕粉を鉢の上にもふりかけただけで、別に土はかける必要はない。

病害

石楠の病氣としてはスズ病がある。この病氣は葉の表裏に黒く附着して葉に煤でもつけたように見え、雨水などで下の葉に蔓延して葉の美観を損すと共に樹を弱らせる。これを駆除するには木灰又は葉灰の水に溶かした汁を作つて、この液を布に浸し

て拭き取つてやれば駆除出来る。

害虫

害虫としてはツツジ類と同じようにゲンバイ虫の害があるが、駆除法はツツジと同じであるので略す。

☆アジサイ

アジサイの種類も色々あつて日本種及び外国種に区別されている。栽培は比較的簡単であるが、適当なる肥料を施して手入れしなければ良い花は開かない。

追肥

よく人から聞かれることであるが、アジサイは花が数多く咲いた翌年はその株に殆ど花がつかなくて一カ年休むといわれるが、これは追肥と手入れの關係で追肥や手入れを充分にしたものは毎年花を咲かせることが出来る。

追肥は北海道ではアジサイの芽が伸び初めた頃、即ち五月中旬頃から油粕又は人糞尿の腐熟液を二倍にうすめて十五日に一回位七月の末頃まで施し、多数の花蕾がいつた時はそのうち半数位に蕾を摘除し、それと同時に細い枝は根元から剪定することが必要である。アジサイは多少酸性の土地に作つたものは花色がよく出るから、石灰などはあまり施さぬ方がよい。

アジサイは前年の主幹に花芽を着けるものであるから、冬の寒さのため主幹が枯死せぬように延て秋十月下旬頃掘つてやらぬと、折角のアジサイも主幹が枯れて毎年株の根元から新芽が伸びるようになるので花が着かぬことになるから、この冬囲については特に注意すべきである。

病害

病害としては葉に腐敗病が着くことがあるが、通風をよくすれば心配する程のことはない。害虫としては油虫とイラ蛾が出て葉を喰ふことがあるが、発見次第ロゼゾールの八〇〇倍液を撒布すれば駆除することが出来る。(雪印種苗造園部勤務)